

## 海技教育機構 第3回研究発表会の開催結果について

### 1. 実施日時

平成29年9月28日(木) 10:00~17:30

### 2. 実施場所及び発表件数

帆船日本丸記念財団日本丸メモリアルパーク訓練センター第1・2教室

発表件数14件(業務紹介を含む)・特別講演2件

### 3. 聴講者について

(1) 機構内：74名(うち芦屋：海技大学校WEB中継14名、神戸第2地方合同庁舎WEB中継1名)

(2) 機構外：45名(うち芦屋：海技大学校WEB中継0名、神戸第2地方合同庁舎WEB中継5名)

官公庁	11名：国土交通省海事局、海上保安庁、関東運輸局
研究機関	4名：海上・港湾・航空技術研究所(電子航法研究所)、海洋研究開発機構
民間	17名：(株)商船三井、郵船クルーズ(株)、ダイハツディーゼル(株)、新潟原動機(株)、共和産業海運(株)、東都海運(株)、寺崎電気産業(株)、ロイドレジスタグループリミテッド、日刊ジャパン SHIPPING ニュース(株)内航海運新聞、日本海洋事業(株)
その他	13名：(公財)帆船日本丸記念財団(公社)日本海難防止協会、(一財)日本海事協会、(一財)海技振興センター、(一社)日本船主協会、(一社)全日本船舶職員協会、(公財)海技資格協力センター、全国内航タンカー海運組合、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会、東京湾水先人会、日本赤十字社、

### 4. アンケートについて

(1) 回収率31.9%(配布91枚 回収29枚)

(2) 集計結果

#### ①所属

官公庁	7名
研究機関	4名
学校・大学	0名
民間	7名
その他	1名
機構職員	11名

#### ②発表会に来た目的(複数回答)

研究の参考	6名
業務の参考	15名
共同研究者の発表があるため	4名
情報交換	6名
興味があるから	9名
その他	1名



来賓 蒲生海事局長ご挨拶

③専門分野（複数回答）

教育	4名
研究	3名
開発	1名
海事	18名
その他	0名

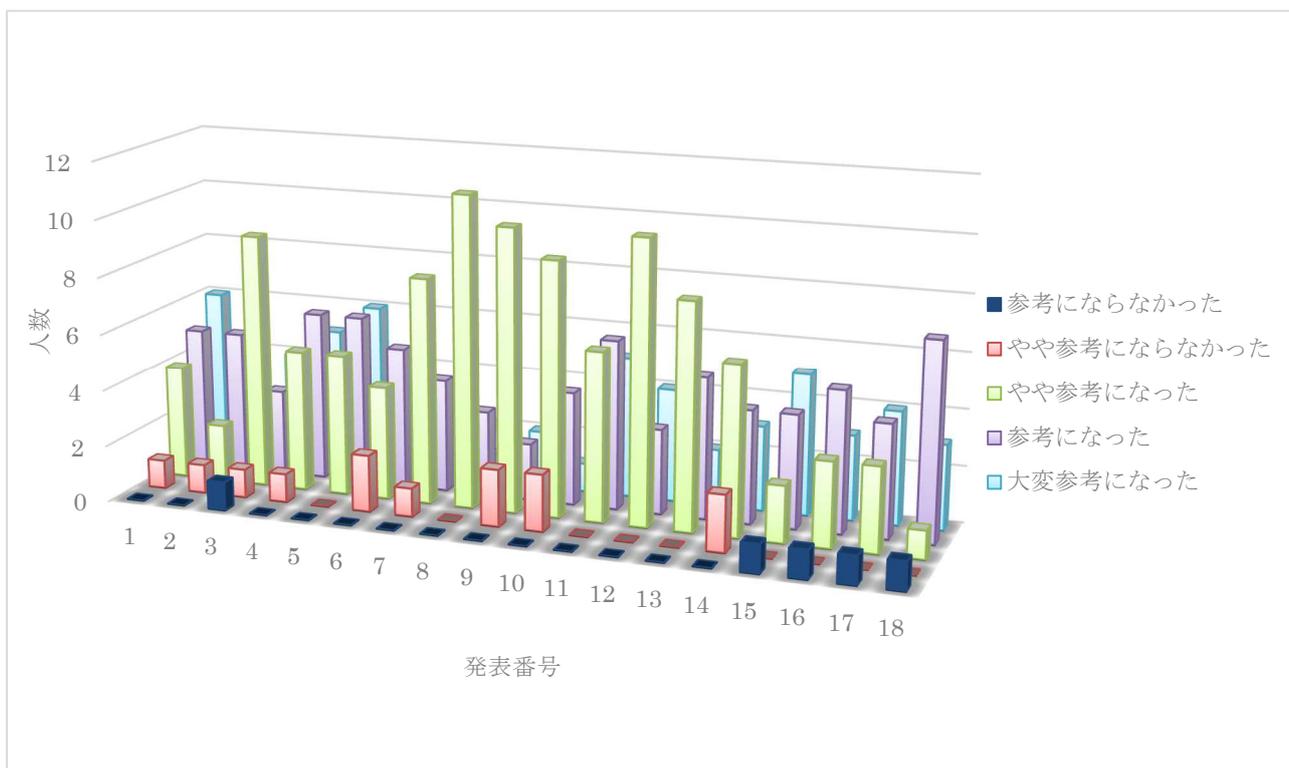


発表会の様子

④研究発表会を何で知ったか（複数回答）

送付プログラム	5名
ポスター	3名
ホームページ	2名
当機構関係者から	19名
その他	4名

⑤聴講した発表に対する参考度についての5段階評価



番号	題 目	評価数
1	【記念講演】 初代日本丸の国重要文化財指定について	16
2	【特別講演】 水難救助の今 -UITEMATE-	16
3	【国際条約及び新規法令対応講座について】 STCW 条約第6章基本訓練にかかる技術講習	18
4	【国際条約及び新規法令対応講座について】 極海を航行する船舶の基本訓練	17
5	【国際条約及び新規法令対応講座について】 国際ガス燃料船コード講習／フロン排出抑制法対応講習	17

6	JMETS 練習船における六級海技士（航海）養成訓練について －練習船銀河丸訓練報告－	14
7	船員養成における学校の自己完結性と学習の往還 －授業及び校内練習船実習の観察に基づく分析－	15
8	落水者救助操船法に関する研究 －大成丸における原針路復帰操船法－	15
9	ナウヰリウヰリ港湾事情	16
10	外地寄港中における教育交流活動について －OAHU 及び KAUAI で実施した交流の紹介－	16
11	機関実習用タブレット教材の活用方法について	17
12	外航船員教育訓練に関する取組み －機関保守整備作業におけるマネジメント能力の向上－	17
13	海王丸における長期停泊時の燃料節約の取り組みについて －地球温暖化防止のための停泊時の二酸化炭素放出抑制－	15
14	アンケート調査に基づく実習訓練の改善について －主機ピストン抜き実習－	15
15	気象情報等の共有化による運行管理 －Weather Routing ソフトウェアを利用した最適航路の検証について－	12
16	低速時における船体運動特性に関する研究 －主機操縦装置更新後の日本丸（FPP 2 軸 1 舵船）の操縦性能について－	12
17	低速時における船体運動特性に関する研究 －日本丸（FPP 2 軸 1 舵船）によるその場回頭について－	12
18	大型帆船の帆走性能に関する研究 －冬季北太平洋における日本丸の最適航路選定について－	12

⑥ 研究発表会の内容についての感想及び意見

(横浜)

- 第2～第4の研究セッションに置いて、研究と報告、紹介（要望）が入りまざっているように感じた。研究への統一が必要ではないでしょうか。
- 多岐にわたる研究の取り組みがなされていたことに、とても関心を持ちました。
- 会場アクセスが多少わかりにくかった。以前の合同庁舎のほうが部外者にはわかりやすく、参加しやすいとおもう。
- 中身が濃い発表が多いので、もう少し詳しいレジュメを配布してもらえるとありがたい。
- 内容が盛りだくさんなので、後で資料を見直したいと思うので、検討頂きたい。
- 日々の訓練結果を踏まえた内容は社船においても参考となるような点が見られた。
- こうした発表をもう少し海技教育機構で共有できればと考える。
- バラスト水問題、エネルギー効率管理計画（SEEMP）、GHG 排出削減等々、商船の世界でもっともホットな環境問題に関し、JMETS の教育訓練での扱いや練習船での対策等について聞いてみたかったです。次回は是非、JMETS の環境問題への対応を取り上げてください。
- 第1セッションにて、具体的プログラム内容を知りたかった。

(芦屋)

- 業務紹介の内容をもう少し詳しく教えて欲しかった。

(神戸)

なし

⑦ 研究発表会全体についての感想及び意見

(横浜)

- 一つ一つの発表が15～20分と短い中、非常にわかりやすくまとめられており、短い時間で多くの情報を得ることができました、
- 練習船の教官であり、マイクを通すとかなり音量が高く感じた。人の音量調整は難しいと思うので、元音量の調整をしていただきたい。
- ⑥にも書いたが、内容が盛りだくさんで発表が駆け足になる。内容を絞って発表会の回数を増やすなど考えられないだろうか。
- 数人だが、発表時間を無視したような発表者が残念だった。多数が発表するのだからルールを守ってもらいたい。
- 質問時間が十分ではなかった発表がいくつかありました。必ず講演時間を守っていただき予定どおり5分の質問時間を確保していただきたい。
- AMセッション、ほとんど聞き取れなかった。
- プレゼンの文字が多く、読み入ってしまう。
- ポインターを振り回しすぎで、発表がとても見にくいものがあった。

(芦屋)

なし

(神戸)

- WEB中継の試みは、評価したいが無線接続の為に画面がフリーズしていた。光ケーブル回線の活用(一時的な物)を検討されたい。関東に出向かなくとも発表会に参加できて良かった。
- 発表資料のパワーポイントが可能なら頂きたい。
- 庁舎内でも聴講できることは大変ありがたい。今後も続けて貰いたいと思います。

⑧ 統合した海技教育機構に今後期待すること

(横浜)

- 外部者の来聴者を増やし、興味を持って頂くには、練習船間の情報共有だけでなく、広く練習船がどのような教育を実施しているか、新たな教育手法等、テーマの選定も必要かと感じます。
- 大変有意義な発表であり、今後も海事主体での知識・技能向上に先頭に立って貢献していただきたい。
- 将来は開運に係わる運行実務教育としての会議にとどまらず、海洋資源開発や海洋観測やFLNG、FLPGなど、広く海洋全般の海技教育機関として機能し、多くの海洋人材を育てて欲しい。
- 最新機器等、実機での陸上でのプログラム、安全に対する意識向上のためのプログラムがあると有効かと思った。

(芦屋)

なし

(神戸)

- 実習生の出身、気質が様々で有り、訓練教官のご苦労には敬意を表します。今後とも海運界を支える若人を養成して頂きたい。